

卒業、修了



世界の様々な事物・人々との出会いは、二十歳前後の若僧に、強烈なインパクトを伴って迫ってきた。

人文学部行動科学課程4年
黒澤 慎太郎

学生の本分とはもちろん学業である。しかし、私の大学時代のもっとも大きな関心といえば海外を旅行することで、本業よりも、むしろそちらに精力を注ぎ込んでしまった。行き先は専らアジアで、春休み・夏休みだけでは足りずに、一年間休学してまで旅行にうつつをぬかしまくったのである。

世界の様々な事物・人々との出会いは、二十歳前後の若僧に、強烈なインパクトを伴って迫ってきた。それぞれが圧倒的な衝撃であり、それら一つひとつを消化して自分なりの認識を持つことは、旅行中においても、また帰国してからの生活の中でもあまりできていない状態である。

経験を消化するという意味で、私は、自分の中で未だ旅行は続いているのだと感じている。そして周囲への関心を広げることと経験に対して自分なりの認識を持つとするのだと感じている。そして周囲への関心を広げることと経験に対して自分なりの認識を持つとする態度は、社会に出ても持ち続けていくことだろう。自分の学生生活は学業中心ではなかった



が、それでもやはり意義深いものだったと私は思っている。

仲間の大切さ

教育人間科学部学校教育学専修4年
阿部 沙耶花

大学生活での思い出は何かと尋ねられたら、多くの人が旅行など、どこかに遊びにいったことをあげるのではないだろうか。しかし、私は、友人と夜通し語り合ったことや炎天下の中での部活など、ごく普通の日常生活の方が印象に残っている。他人から見れば、平凡なものに思えるかも知れないが、私にとっては、本当に楽しく充実した日々であった。

私がこのような充実した大学生活を送ることができたのは、陰で支えてくれた両親や先生方、そして、たくさんの仲間のおかげであると思う。最後の1年間は、教員採



出会った全ての人に、感謝の気持ちを忘れず、新しい人生を歩んでいこうと思う。

用試験、卒業論文と、勉強漬けの日々であり、投げ出したくなるのが何度もあったが、同じ夢に向かって頑張る友人や、笑顔で応援してくれる部活の仲間に支えられ、無事に卒業の日を迎えることができた。充実した大学生活を与えてくれた新潟大学と、出会った全ての人に、感謝の気持ちを忘れず、新しい人生を歩んでいこうと思う。

私が積み重ねてきた4年という日々

法学部法政コミュニケーション学科4年

飯田 真弓

私の学生生活はこの春大学を卒業することで終わります。学生生活の最後の4年間は、今までのものとは異なり、最も自由な、しかし同時に自分に対する責任が伴うものだったように思います。毎日自分が色々な選択をしながら積み重ねてきたもの、それが私の大学生活4年間になりました。その中には日常的な小さな選択から、1年の時の学部で主催されていたサマースクールへの参加、2年でゼミに所属したこと、3年での留学、それから就職活動といった、その後に影響を与えた大きなものまで様々でした。全ての場面で色々な人に出会って、その人達に助けられ、影響を受けてこの4年を過ごしてきました。この場をお借りして、みなさんに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。ありがとうございました。これからも学生生活を続けられるみ



本人最前列左から2番目

なさんには、毎日が選択の積み重ねであることを意識して、様々なチャンスに貪欲であってほしいと思います。

1つの旅を終えて

経済学部経営学科

三澤 貴裕

4年間の大学生活を振り返ると、ある種、長い旅をしてきたように思える。新潟という限定された1地方において、様々な地方の人、様々な年代の人と知り合い、そして交流を深めることができた。しかし、思い出といえる思い出は浮かんではこない。この人達との交流は、いつしか自分の生活の一部として当たり前のものとなっていた。このことを表す1つとして、自分の話し方が、新潟の言葉遣いと関西の言葉遣いとが混合したおかしな話し方になってしまった。このくだらないことを始め大学生活で得たものの集大成は、今の自分にすべて表われている。まだ、この穏やかに流れつつ刺激が多かった旅と、そして今の自分でいたいということに未練はあるが、卒業とともに、それらとさよならしなくてはならない。これから新しい旅に出るにあたって、この未練を忘れられるくらいよい旅、よい自分に出会えればと思う。



本人中央

自分の話し方が、新潟の言葉遣いと関西の言葉遣いとが混合したおかしな話し方になってしまった。

毎日自分が色々な選択をしながら積み重ねてきたもの、それが私の大学生活4年間になりました。